

令和8年度 第1回特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会 会議録（抄録）

1 日時 令和8年6月2日（火）10：30～15：30

2 会議名称 令和8年度 第1回特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会

3 出席者

（委員）

足立 佳代	日本女子大学非常勤講師（オンライン参加）
井上 尚明	立正大学講師
高久 健二	専修大学教授
仁藤 智子	国土舘大学教授（オンライン参加）
羽生 冬佳	立教大学教授
若狭 徹	明治大学教授

（連絡・調整）

埼玉県教育局文化財・博物館課 副課長 内田 幸彦
史跡・埋蔵文化財担当 吉田 修太郎

（事務局）

さきたま史跡の博物館	館長 野中 仁
さきたま史跡の博物館	副館長 石村 卓也
さきたま史跡の博物館	主席学芸主幹 佐藤 康二
さきたま史跡の博物館	総務・公園担当 担当課長 関根 啓一
さきたま史跡の博物館	史跡整備担当 学芸員 宮原 正樹
さきたま史跡の博物館	史跡整備担当 学芸員 片山 健太郎
さきたま史跡の博物館	史跡整備担当 学芸員 金澤 明里
営繕・公園事務所	公園担当 担当課長 小崎 伸悟
	主任 戸屋 裕亮

4 概要

特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会令和8年度第1回会議を開催した。当日は委員8名のうち会場4名、オンライン2名の計6名に出席いただいた。座長は昨年度から引き続き、井上委員にお願いした。協議会では、特別史跡埼玉古墳群の今後の保存と活用の方策について事務局より説明し、各委員からご意見をいただいた。詳細は次記のとおり。

5 会議録

【報告事項】

2 保存事業

(3) 愛宕山古墳整理作業について

委員：報告書の刊行はいつか。

事務局：令和 10 年度末を予定している。

委員：整理作業についてなにかあれば委員の先生方にも積極的に相談してほしい。

3 活用事業

(1) 活用事業の報告と計画について

委員：博物館が主催した各イベントの広報の方法と、各連携事業（さきたま火祭り・行田古墳フェスティバル）の開催場所は公園内のどこか。

事務局：広報は、館のホームページと SNS を利用している。埼玉県庁の公式ラインも、定員の縛りが無いイベント等で利用している。火祭りは、小円墳跡と丸墓山古墳の間にある芝生広場で実施している。行田古墳フェスティバルは、さきたまテラス（メイン会場）とさきたま広場で開催している。

委員：芝生広場は古墳に囲まれた地点であると思うが、火祭りに参加したのをきっかけに、周辺の古墳に登ることなどはあるのか。

事務局：登ることはある。火祭りの日は例年、史跡見学者や博物館の来館者数もかなり伸びる。しかし、昨年度に行田古墳フェスティバルの日は、思ったほど伸びなかった。そのため、さきたまテラスに博物館への誘導のための横断幕の設置を始めた。

4 その他

(1) さきたま古墳公園の拡張について

委員：リサイクルヤードとは何か。

事務局：公園内で掘った土や剪定した枝を一時的に仮置きする場である。

委員：整備中ということか。

事務局：工事はしていないが、区域に含まれているという状態。今後、整備する予定である。

委員：リサイクルヤードには何か施設を作るのか。

事務局：施設は作らない。フェンスで仕切りを立てるほか、砂利敷きの想定はしている。

委員：博物館側も利用できるのか。

事務局：共用開始後はさきたま古墳公園を管理する博物館が利用する。

委員：中の山古墳に近いが大丈夫か。

事務局：試掘調査を行っており、遺構等は確認されていない。

委員：現地を知らないと、今の説明で本当に安全なのかよく分からない。

委員：ヤードという名称が最近話題になっている、廃棄物の集積所的なイメージがある。高く囲う等の整備はせず、園路等の邪魔にならない範囲で整えるという解釈でよろしいか。

事務局：そうだ。

委員：以前から協議会で指摘しているが、令和８年度実施予定地は、古墳のミニチュア版の製作計画が白紙になり、広場になった地点である。現在のレストハウスの地点に大きな東屋が立つことになっているが、未だに「体験学習広場」という名称で残っている。どのような体験学習のコンセプトを考えているのか。

事務局：現状の段階では名称に即したコンセプトは見いだせていない。現状は駐車場があり、公園南側の玄関口として起点の一つに改善していくつもりである。

委員：全体でよく話し合って活用方法を検討してほしい。

以上